

1. 応募の動機・理由を簡単にご記入ください。

去年7月に発生した西日本豪雨災害において、岡山県下で大きな被害があった。従来、岡山県は災害の少ない土地として認識されていたが、この災害を受け、以前に比べてより身近な問題として、住まいの安全への意識が高まっている。そこで、中学校1年生住生活領域の学習において、住宅内で安全に暮らすという日常の工夫とともに、非常時の避難経路・避難場所など災害への備えを含め、安全で快適に住む工夫を生徒に考えさせたいと思った。さらに、避難所の暮らしを想定し、今までの家庭科における学びを総集し、それを生かして考える「パフォーマンス課題」を設定し、生徒に考えさせる学習としたい。本校の防災を視点とした実践が住教育を広める機会となればと願っている。

2. 学習予定の概要を以下の3点について記入してください。

(A 中心となる活動, B 授業の狙いと特徴, C 学習の流れ (指導計画))

A 中心となる活動

附属中学校が避難所になり、多くの人が体育館にしばらく住むことになったと想定し、被服室を子どもの遊び部屋(乳幼児の遊び空間と合わせて授乳やおむつ替えなどができる空間も可)として開放した場合どんな工夫ができるか、考えてレポート(企画書)をまとめる。

B 授業の狙いと特徴

これまでに学習した空気環境や騒音問題、家庭内安全の知識や技能を生かしながら考えることで、活用する力、実生活につながる力に導くことができる。今回は、幼児を対象として空間を設定したため、保育領域との連携ができ、総合的に、快適で安全な住まいの学びを生かした空間を構成することができる。また、空間を他者と使う為の配慮やルールについて考えることができる。

C 学習の流れ (指導計画) 別紙参照

導入 ・避難所における「子どもの部屋」をデザインするにあたり、配慮することを確認する。

・「子どもの部屋」でのルールが必要であることに気づく。

展開 ・前回までの授業をふり返り、安全面での家庭内事故防止・衛生面での空気環境・社会面での騒音問題を工夫するためにはどのようにしたらよいか、考える。

・学習したこと以外に工夫する点はないか考え、「子どものため」という視点から「美化」について興味を広げ、色彩や形、「かわいく」など、子どもが喜ぶ外観が必要であることにも気づく。さらに、子どもの身体寸法に基づき、設え(しつらえ)の高さや広さにも関心が生まれる。

・自分が考えた工夫点を他者に伝えるため、企画書に文や表やイラストで表現する。

まとめ ・企画書の内容と感想を班内で発表する。

・発展的な課題として、今回は幼児が対象であったが、乳児や授乳婦、さらに、妊婦や高齢者、障がいのある人、けが人などにも配慮する必要があることなど福祉の視点に気づく。

その他特記事項がありましたらお書きください

・ 弊校の住生活領域のカリキュラムは、以前より、近畿大学の関川華先生（元岡山大学教育学部家政教育講座）のアドバイスをを受け、岡山大学教育学部からの教育実習生と丁寧に議論を重ねながら研究を進めている。また、弊校は研究発表会・実践発表会（年に1回）を行い、県下の家庭科教諭（小・中・高等学校）との議論の機会、及び授業内容と実践方法の提案をする役割がある。現在、防災や減災という話題は岡山県民として身近であることから、教諭及び生徒の関心は高く、今回の授業提案は活発な議論に繋がると共に発展性のあるテーマになると期待している。さらに、弊校の家庭科研究室では衣生活領域、食生活領域に加えて、住生活領域のカリキュラム構成研究を継続的に行なっており、貴財団の住教育ガイドラインも参考にしつつ本授業と他の授業との関連性も含めた検討を行いたいと考えている。

※複数枚になってもかまいません。

※他に添付資料がありましたらお付けください。

追加資料

以下のようなカリキュラムを作成し、学習を進めていく予定である。

なお、ガイドラインの領域についても、分類し右端に記入した。

カリキュラム案

計 画（全10時間）

第一次	住居の役割	3時間
1	生活行為と住空間	1時間（人と住まい）
2	日本の住まい	1時間（住まいと環境）
3	住居の役割を活かした住まい方（体育館）	1時間（人と住まい）
第二次	快適で安全な住まい方	4時間
1	空気環境	1時間（住まいの空間と構成）
2	家庭内安全	1時間（住まいの空間と構成）
3	騒音問題	1時間（住まいと社会）
4	よりよい住生活をめざして（被服室）【本時】	1時間（住まいの空間と構成）
第三次	災害に備えた住まい方	3時間